

立木観音音楽祭

- クラシックと聲明の祭典 -

Music Festivals

早乙女フーバー陽子 [ヴァイオリン]



愛知県生まれ。3歳よりヴァイオリンを始める
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て同大学卒業。近藤た子氏、佐々木はるる氏、大谷康子氏、故山岡耕筈氏、堀正文氏、宗倫匡氏、ライナー・キュッセル氏、ニハエル・シュニツラ氏に師事。

全日本学生音楽コンクール名古屋大会第1位。東京都練馬区新人オーディション第1位。
日壇文化協会オーディションにて選ばれ、東京サントリーホールにて受賞ソココンサート。名古屋フィルハーモニー交響団と共演。アフィニス財団主催「アフィニス音楽祭」にて、シカゴ交響楽団とソロメンバーとサントリーホールその他にて室内楽コンサートに出演。ウィーン国立音楽大学にて、ウィーン・フィルコンサートマスター ライナー・キュッセル氏に師事。バロックヴァイオリンの巨匠エドゥアルド・ルクス率いる「カハラアカデミカウーン」のメンバーとして「ウィーン美術館コンサート」「モーツァルト音楽祭バーデン」に出演。読売日本交響楽団及び名古屋フィルのメンバーによるアンサンブルとヴィヴァルディ「四季」のリストとして東海市芸術劇場大ホールにてコンサート出演。オーストリア・ウィーン在住。

「ろうそくの光コンサート」(低オーストリア洲) 出演記録

- ・ウィーン・フィルのメンバーによるアンサンブルとヴィヴァルディ「四季」のリストとして共演。
- ・ウィーン・フィルメンバー(ライナー・キュッセル、故フランツ・バルトロメイ、故ヴォルフガング・ギョルトラー)とシュベルト:ピアノ五重奏曲「ます」を共演(ヴァイオリン)。
- ・ウィーン交響楽団ソロヴァイオリン奏者ヨハネス・フリーダー、ヴォルフガング・パンホファーと弦楽三重奏を共演
- ・アルバン・バルク弦楽四重奏団のテリストヴァレンティン・エルベン、ピアニストロベルト・ポビチュカとピアノトリオを共演

ロベルト・ポビチュカ [ピアノ]



オーストリア生まれ。ウィーン国立音楽大学でピアノを専攻するかたわら、ウィーン大学法学部卒業。ザクパテルブルグ国立音楽院にて、タチアナ・クラフチェンコに師事。

ブルクナーハウス(オーストリアリンツ)、ウィーンコンチエルトハウス、ウィーン楽友協会、ミラテンホール(オーストリアグラーツ)等にてコンサート。

アイゼンシュタット・ハイドンフェスティバル、ドルニー・ルカヴァーチェ・ハイドンフェスティバルのオープニングオーケストラコンサートにて、ピアノ協奏曲を共演。また、ベルリンポツダムにおける「ウィーン週間コンサート」「モルホース城の夕べ」オーストリアセンメリクの「夏の夢フェスティバル」に招聘され演奏。イタリア、ドイツ、ロシア、チェコ、ハンガリー、南アフリカ、ペルー、アメリカ合衆国、中国にてコンサートツアー。オーストリア「ケルテンの夏音楽祭」にて自作のピアノ協奏曲第1番を、ウィーンコンチエルトファイブオーケストラと共演。ドロゼンドルフ際サマアカデミーオープニングコンサートにて、ザルツブルク・モーツァルト管弦楽団と自作ピアノ協奏曲第2番を共演。ウィーンフィルトップメンバーによるアンサンブルと自作のピアノ協奏曲第2番をウィーンバート・ヴェンザールとヴァイトホフェン市民会館にて共演。

曲目 | ※曲目は変更になる場合がございますので、予めご了承ください

アントニオ・ヴィヴァルディ	「四季」作品8より抜粋
フレデリック・ショパン	プレリュード 作品28より 15番&16番
マックス・ブルッフ	ロマンス 作品85
サラサーテ/ビゼー	カルメン幻想曲 作品25

2025

5.22(木)

第一部	ヴァイオリン・ピアノ Duo Recital	13:30~
第二部	天台聲明公演	14:00~
第三部	ヴァイオリン・ピアノ Duo Recital	15:00~

場所

中禅寺立木観音 五大堂

※中禅寺立木観音の拝観券を購入された方は自由にご鑑賞いただけます。

拝観料 大人500円 小人200円

お問い合わせ|

中禅寺立木観音 〒321-1661 栃木県日光市中宮祠 2578 TEL.0288-55-0013・0015



天台聲明 (てんだいしょうみょう)

聲明(しょうみょう)とは、お経に節がついたもので、仏さまの教えを讃嘆(さんたん)するために僧侶が儀式の時に唱える仏教声楽曲です。

聲明は日本の歌謡の原点ともいわれております。聲明の中でも、天台聲明はゆったりとしており、瞑想的で優雅かつ、多くの僧侶により発せられる声の厚みや奥行きがあります。

その中に創り出される、荘厳な世界は、迫りに圧倒されると共に、魂の奥深くに届き、心が解放され、日常の悩みや心配事なども忘れられるひとときとなるでしょう。

出仕 (出演者)

栃木県天台仏教青年会

18歳から45歳までの栃木県天台宗の僧侶の集まりで、天台宗の教義を基調として仏法興隆と世界平和に寄与することを目的に様々な活動を行っている。昭和44年発足。創立55年の歴史がある。



曲目 | ※曲目は変更になる場合がございますので、予めご了承ください

・四智讃梵語 (しちさんぼんご)

サンスクリット語=梵語で唱える。列立して唱えるのを「列讃」行道しながら唱えるのを「行道讃」と言う。

・四智讃漢語 (しちさんかngo)

四智梵語讃の漢訳。式衆が着座してから唱えるので、先の「列讃」「行道讃」に対して「着座讃」と言う。

・散華 (さんげ)

花を散らして佛を供養する「願我在道場香華供養佛」(願わくば我、道場に在りて香華を佛に供養し奉る)

・対揚 (たいよう)

佛説法の会座における対告衆の佛徳を称揚するもの。偈文は諸願成弁の祈りの文になっている。

・法則 (ほっそく)

この法要の主旨意味を述べ、善神を招き過去聖霊成仏を願い、施主願主の悉地成就を祈る

・供養文 (くようもん)

つつしんで三宝を礼拝し香華を供養して仏事の成就を願う

・唱礼 (しょうらい)

曼荼羅の諸尊の名を唱えて恭敬礼拝する。今回は中略。

・九方便 (くほうべん)

胎蔵界懺悔の礼仏法で「作礼・出罪・帰依・施身・発願・随喜・勧請・奉請・回向」の九種の方便より成る。今回は略して三方便を用いる